7 甲駿国境の要塞地帯

南部町

南部の地は、南部氏が奥州に移った後、室町時代には武田氏に仕える穴山氏が治めた。南部町福士・万沢・十島などは、甲斐と駿河の国境付近であり、戦国時代には駿河からの敵の侵入を防ぐ重要な場所であった。そのため、多くの城砦がつくられ、現在でもその城砦の痕跡を各所にみることができる。

1 真篠城跡

城主や築城時期は不明であるが、甲斐と駿河を結ぶ駿州往還を抑えるための大規模な山城であると推測されている。頂上には土塁で囲まれた主郭(20×55m)があり、次いで二の曲輪がある。その周囲には10か所程の平場がある。現在でも土塁・堀・郭が良好に残存しており、測量調査が行われ、東国ではあまり類例をみない畝状竪堀が城の南側の街道沿いに配されている状況等が確認されている。県指定史跡。

2 井出城山城跡

南北に細長い山頂部に平坦地があり(主郭部)、城山天満宮がある。南北には堀切が確認できる。

3 十島の烽火台（東の遠見・西の遠見）

『甲斐国志』で取り上げられており、地元の伝承で遠見と呼ばれる場所があるが、遺構などは不明である。

4 葛谷城

開発に伴う発掘調査の結果、土塁をめぐらせた一の曲輪・二の曲輪・東の曲輪や曲輪の周りを取り囲んだ空掘などを備えた山城跡で、大規模な遺構であることが判明した。また、遺構の検討から戦国時代の永正年間（1504～1521)に今川氏によって築城されたのち、永禄10年(1567)以降武田氏によって規模が拡大され、再構築されたことが確認されている。現在は開発により消滅。現地には題目碑と武田信玄の供養塔がある。

5 最恩寺

仏殿は応永年間(1394～1427)頃に建立されたと考えられる。その後しばらく荒れていたが、永禄年間(1558～1569)に武田氏や穴山氏の庇護によって再興され栄えた。花頭窓や弓欄間も当初のものを残しており、禅宗様の流れを示す重要な建築。国重要文化財。

6 福士の城山

別名、金比羅山砦。『甲斐国志』によれば幅6mの堀切と尾根づたいにいくつかの郭があり、本郭に至る。戦国時代につくられ、駿河の今川氏に対する備えとして矢島の佐野越前守が守っていた。北には真篠城があり、その前備えの砦として徳間、石合、万沢方面からの敵の侵入に備えていた。

7 白鳥山城

『甲斐国志』には「永禄12年(1569)に武田信玄が駿州攻撃の時にこの山に物見を架した」と記述がある。山の一部が発掘調査された結果、出城の一部が確認された(仮称境川砦)。狼煙台跡がある。狼煙台は、戦国時代武田流戦術の一つとして駿河の情勢を白鳥山を基点として、府中(甲府市)の躑躅ヶ崎の居城まで狼煙で連絡する場所として設置された。